

琉球新報

12月23日 木曜日

[旧11月18日・仏滅]

THE RYUKYU SHIMPO

第36624号

発行所 琉球新報社

〒900-8525那覇市天久905番地

電話 098(865)5111

©琉球新報社2010年



【東】米東北部訓練場の一部返還に伴う東村高江へのヘリコプター着陸帯(ヘリパッド)移設で、沖縄防衛局は22日早朝、2月から中断していた工事を10カ月ぶりに再開した。防衛局は、現場で座り込みを続ける「ヘリパッドいらぬい」

高江ヘリパッド

早朝に工事再開

10カ月ぶり 仮設フェンス設置



綱を組み阻止行動を警戒しながら作業する沖縄防衛局の職員ら＝22日午前6時45分ごろ、東村高江、N1地区へのゲート前

住民の会がいよいよ午前6時15分が経過された。防衛局は半前、建設予定地へのゲート2カ所で作業を開始。住民らが駆け付け中止を求め、建設予定地に続く道を

整地した。午前7時55分に工事を終え撤収した。

(3、29面に関連)

防衛局が座り込みの住民2人を相手に通行妨害禁止を求めた訴訟で、那覇地裁が1日、両者の対話を提案した中での工事強行を関係者は強く批判している。

移設事業の環境影響評価書は、騒音を低減するため早朝の工事は休止すると明記している。防衛局は早朝の作業について「今回は買材搬入であって工事ではない。ヘリパッド本体工事は原則、早朝は工事しない」としている。

防衛局の真部朗局長は22日の会見で、工事を始めたタイミングについて「本日より所要の準備が整った」と述べ、2011年度予算編成に向けた実績作りとの見方を否定した。今後の予定について「明言は避けながらも「状況を見ながら進めていきたい」と表明した。

「ッドいらぬい」住民の会の弁護団は緊急の抗議声明を発表。「裁判所から対話を促されたにもかかわらず、工事強行は対話を放棄するものだ」とし、訴訟の早期取り下げを求めた。